

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)											
ES11E001	教育実践研究報告書(Research Report on Educational Practice in Schools)					研究報告											
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
必修	2	2	大学院教育学研究科			氏名 山崎清男、森才三、今村裕、福本昌之、竹中真希子、雪丸武彦、大島崇、有定裕雅、古庄一夫、立川研一、牧英治郎、市原靖士、小池一彦 E-mail 内線											
授業の概要	理論と実践の往還の観点から、2年間の学習・研究を振り返り、報告書にまとめることを目的とする。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	各自の研究テーマの総括を行うことができる。																
目標2	学校実地研究や教育体験等を理論的に分析することができる。																
目標3																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	テーマの設定																
2	テーマの設定																
3	内容の検討																
4	内容の検討																
5	内容の検討																
6	内容の検討																
7	内容の検討																
8	報告書の作成																
9	報告書の作成																
10	報告書の作成																
11	報告書の作成																
12	報告書の作成																
13	最終発表会																
14	最終発表会																
15	最終発表会																
ラーニング	A:知識の定着・確認	調査,発表,文章作成				工夫	その他の										
	B:意見の表現・交換																
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修																
	事後学修																
教科書	特になし。																
参考書	特になし。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	最終発表会のプレゼンテーション	20%															
	報告書の内容	80%															
注意事項	・教員の指示に従い、授業の準備と復習を行うこと。 ・報告書作成にあたって学生は教員集団のメンバーとしての自覚を持ち、メンタリングの観点から、経験の豊富な者は経験の少ない者の成長をサポートするよう努																
備考																	
リンク	URL																